

## 反省文

秋田喜美  
国際言語文化研究科

第 2 言語習得論・言語教育論の専門家は他にいらっしゃいますので、私は（反省も込めて）自分のこれまでの英語学習を振り返ってみたいと思います。必ずしも一般性はありませんが、みなさんの多くと比較的近い道筋を辿ってきた日本人のケースとして、何かのヒントになれば幸いです。

以下、「☺=よかったかもと思える点；☹=失敗だったかなという点」です。

\*\*\*\*\*

1. 中学：英語学習開始。先生が流す *New Horizon* の音声の「完コピ」を目指す。  
“Lesson 1, Part 2. New words: *bike*, ...” いまだに覚えている...  
☺カタカナに変換する前に発音・抑揚を真似た。  
☹役立つ表現ではなかったかもしれない。
2. 高校：英和辞典で字面と意味が綺麗な単語を探すのに明け暮れる。例えば、“*breeze*” という単語の文字配列と「そよ風感」に夢中になる。  
☺いいモチベーションにはなっていた。  
☹単語ばかりで、コロケーションには興味がなかった。
3. 大学(1)：英文科だったので英語関連の授業が多くなる。  
☺音声学の授業で発音が改善された。文学作品を読み、難文への免疫が強化された。  
☹英文の「解説」が中心で、コミュニケーション能力は育たず。
4. 大学(2)：基本的に全てのレポートを英語で書く。  
☺モチベーションは高かった。英字新聞への投書にもはまった。  
☹「般教」の先生には迷惑だったかも。
5. 大学(3)：NHK ラジオの「やさしいビジネス英語」をテキストなしで毎晩聴く。  
☺とりあえず習慣化された。  
☹自分にはハイレベルすぎて、しかも身近なテーマでなかったため、身にならず。
6. 大学(4)：学部 3 年次に、バイト代を全部叩いて 1 ヶ月だけ英ブリストルにホームステイ。言語学に関する街角インタビューを行う。  
☺英語が初めて「必要な言語」となった。  
☹日本人学生が多かった。楽しかったが。
7. 大学(5)：UK ロックや *Peanuts* の 4 コマ漫画が好きになる。  
☺歌を口ずさむことで、発音の練習にはなったか。モチベーション。

⊗あまりプラスになったという実感はない。

8. 大学院(1)：修士2年次より研究発表の場を海外に移す。始めのうちは原稿を読んでいたが、使用構文・表現がそれほど多くないことに気づき、次第に原稿を手放す。

⊗専門分野に特化した英語(ESP)に浸った。海外の研究者とのやりとりが増え、受け取るメールの1/2が英語になった。

⊗お金がかかった。

9. 大学院(2)：修士1年次～博士1年次の間、大学への編入学・社会人入学をサポートする予備校で英語を教える。

⊗添削のために、模範解答のない過去問を大量に解くことで、速読能力が養われた。

⊗力尽きて救急搬送。

10. ポスドク：カリフォルニアの大学に1年半留学。同じアジア人ということで、中国からの留学生と雑談することが多かった。

⊗文法力はこちらのほうが高かったので、間違いを気にせずに話せた。それまでの解読学習で形成された英会話時の「構え」がだいぶ取れ、恐らく今までで一番会話力が改善された。

⊗間違った表現・発音は間違ったまま。

11. 大学勤務：名大に来る前、大阪の大学で英語と言語学を担当。

⊗授業準備と授業で同じ映像・音声を繰り返し視聴することで、一番リスニング力が向上したのはたぶん自分自身。

⊗「仕事」になってしまっていた。ちゃんと楽しめていただろうか。

\*\*\*\*\*

以上、かなりランダムな書き方を致しましたが、いくつかのキーワード(e.g., 真似る, モチベーション, レベル, ESP, 構え, 繰り返し)は一般的に鍵になる要素だと思います。みなさんの英語学習ではどうなっているでしょうか？

ご健闘を祈ります☺